

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	患者心理学(コミュニケーション学)	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	谷 佳成恵	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 患者心理について理解し、各疾患における特徴の概要を述べることができる。 2 医療者-患者関係について理解し、効果的なコミュニケーション技法を修得する。 3 生物心理社会的モデルに基づいて健康支援を展開できる。			評価方法			
授業概要	患者本位の全人的な医療を実践するという心を持ち、それが態度に表れ、患者と共感的態度で接することができる医療者を育成するための患者心理学の考え方と方法について学ぶ			期末試験 80% 小レポート 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	心理学 [カレッジ版] 医学書院	使用器材	液晶プロジェクター、ビデオ				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	心理学の歴史(1):心理学とは何か						
第2週	心理学の歴史(2):心理学と臨床心理学の違い						
第3週	学習心理学(1):レスポナント条件づけ						
第4週	学習心理学(2):オペラント条件づけ						
第5週	認知心理学(1):感覚・知覚・注意						
第6週	認知心理学(2):記憶						
第7週	認知心理学(3):言語と知識表現						
第8週	パーソナリティ心理学:類型論と特性論						
第9週	発達心理学(1):総論						
第10週	発達心理学(2):認知的発達段階説						
第11週	発達心理学(3):精神分析の発達理論						
第12週	社会心理学(1):感情・情動と動機づけ						
第13週	社会心理学(2):原因帰属						
第14週	医療者の態度						
第15週	医療者の態度						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に前回の該当箇所を読んでおき、分からない所があったらそれらを書き出しておくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	保健科学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	現在鍼灸施術院の院長	担当者	藤田 桂子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 ストレッチを理解して、主にスタティックストレッチを体感し実演できるようになる。 2 筋の種類や起始-停止、生理的特徴を理解してイメージできる。			評価方法			
授業概要	筋肉の動きや解剖の知識を理解し、ストレッチ(主にスタティックストレッチ)や穴などで体感しながら、臨床現場に必要な技術の習得を行う。体感することで、基礎知識の理解を更に深めることを目的とする。			期末試験 80%			
教科書等	解剖学	使用器材	パワーポイント、プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ガイダンス 保健科学I ストレッチとは						
第2週	ストレッチ実技						
第3週	筋肉の基本 神経・筋について (P119)						
第4週	ストレッチの注意点						
第5週	部位別(筋肉別)上腕二頭筋 解剖・ストレッチ・穴 (P240、180)						
第6週	部位別(筋肉別)上腕三頭筋 解剖・ストレッチ・穴 (P242、180、181)						
第7週	部位別(筋肉別)大胸筋 解剖・ストレッチ・穴 (P211、177、180、181)						
第8週	部位別(筋肉別)広背筋 解剖・ストレッチ・穴 (P220、221、170、180)						
第9週	部位別(筋肉別)三角筋 解剖・ストレッチ・穴 (P237、181)						
第10週	部位別(筋肉別)僧帽筋 解剖・ストレッチ・穴 (P221、253)						
第11週	部位別(筋肉別)大腿四頭筋 解剖・ストレッチ・穴 (P269、187、191)						
第12週	部位別(筋肉別)ハムストリング 解剖・ストレッチ・穴(鷲足について) (P274、191)						
第13週	部位別(筋肉別)下腿三頭筋 解剖・ストレッチ・穴 (P278、191)						
第14週	筋の生理的特徴						
第15週	前期のまとめ						
授業外 学習指示等	小テストを行う前には復習を行うこと。						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	解剖学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	星野 英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.骨の基本構造・機能を説明できる。 2.人体を構成する骨とその各部の名称を説明できる。 3.関節の構造とその運動について説明できる。 4.筋の基本構造・機能を説明できる。 5.人体各部の筋とその起始・停止、支配神経、作用について説明できる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、鍼灸師として必要な基礎学力を身につけることを目的とする。			期末試験 50% 中間試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学 第2版 医歯薬出版	使用器材	パワーポイント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第10章 運動器系 [10- I .総論] 1.骨格系						
第2週	[10- II .全身の骨格] 5.頭蓋骨 1)頭蓋骨の成り立ち 2)脳頭蓋をつくる骨						
第3週	3)顔面頭蓋をつくる骨 4)頭部の関節・顎関節						
第4週	[10- II .全身の骨格] 1.脊柱 1)脊柱の構成 2)各部の椎骨						
第5週	3)脊柱の弯曲 2.胸郭						
第6週	3.上肢の骨格 1)上肢帯の骨						
第7週	2)自由上肢の骨 3)上肢の関節						
第8週	中間試験						
第9週	4.下肢の骨格 1)下肢帯の骨						
第10週	2)自由下肢の骨 3)下肢の関節						
第11週	2.筋系						
第12週	[10- III .体幹] 1.体幹の筋 1)胸筋						
第13週	2)腹筋 3)会陰筋 4)背筋						
第14週	2.体幹の運動 1)体幹の前屈・後屈 2)体幹の側屈 3)体幹の回旋 4)呼吸運動 3.体幹の局所解剖 1)胸部 2)腹部 3)会陰 4)背部						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	生理学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院開設(経験年数14年)	担当者	堀之内 貴一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	人体の個々の細胞・組織・器官がどのような性質を持ち、どのように働くのかを理解、習得することを目標とする。			評価方法			
授業概要	人体の仕組みを学び、生命現象の機序を理解する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学-第3版- 東洋療法学校協会	使用器材	教科書及び配布プリント				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ガイダンス 第1章 生理学の基礎		生理学の特徴				
第2週	第1章 生理学の基礎		細胞の構造と機能				
第3週	第1章 生理学の基礎		物質代謝 体液の組成と働き				
第4週	第1章 生理学の基礎		物質移動				
第5週	第2章 循環		血液の組成と働き				
第6週	第2章 循環		止血 線維素溶解				
第7週	第2章 循環		血液型 心臓血管系				
第8週	第2章 循環		心臓の構造と働き(前)				
第9週	第2章 循環		心臓の構造と働き(後)				
第10週	第2章 循環		血液循環(前)				
第11週	第2章 循環		血液循環(後)				
第12週	第2章 循環		循環調節(前)				
第13週	第2章 循環		循環調節(後) リンパ系				
第14週	第3章 呼吸		呼吸器、換気とガス交換				
第15週	第3章 呼吸		呼吸運動とその調節				
授業外 学習指示等	予習・復習は配布プリント、教科書を熟読すること。						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	衛生学・公衆衛生学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 公衆衛生の意義を述べることができる。 2. わが国の健康を取り巻く状況について説明できる。 3. 健康に影響を及ぼす因子について説明できる。			評価方法			
授業概要	教科書、および教科書をベースにしたプリント、スライドを用い講義を行う。			中間試験50% 期末試験50% ※出席状況等も加味する場合がある (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	衛生学・公衆衛生学	使用器材	白板、プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第1章 衛生学・公衆衛生学の意義						
第2週	第2章 健康 1. 健康の概要 2. 健康管理 1)健康管理						
第3週	第2章 健康 2. 健康管理 2)健康増進 3)衛生行政 4)医療制度と医療保障						
第4週	第2章 健康 2. 健康増進 3)衛生行政 4)医療制度と医療保障						
第5週	第3章 ライフスタイルと健康 1. 食品と栄養 1)食品の意義と食生活・2)保健機能食品						
第6週	第3章 ライフスタイルと健康 1. 食品と栄養 3)食品と疾病・4)食品加工と添加物						
第7週	第3章 ライフスタイルと健康 1. 食品と栄養 5)食中毒～・2. 運動と健康 と復習						
第8週	中間試験						
第9週	解答解説 第4章 環境と健康 1. 環境とは						
第10週	第4章 環境と健康 2. 日常生活環境 1)物理的要因 電離放射線と非電離放射線～						
第11週	第4章 環境と健康 2. 日常生活環境 2)化学的要因(1)空気(2)水						
第12週	第4章 環境と健康 2. 日常生活環境 2)化学的要因(3)栄養素と毒性物質 (5)有機塩素系化合物						
第13週	第4章 環境と健康 2. 日常生活環境 3)生物学的環境要因						
第14週	第4章 環境と健康 3. 環境問題 1)公害						
第15週	第4章 環境と健康 3. 環境問題 2)地球規模の環境問題 と復習						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること 3 講義後、分からない所があれば講義後に先生に質問し、できるだけ当日中に理解すること						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	医療概論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	医療概論では医学の歴史、医療資源および医療倫理について学ぶ。			評価方法 期末試験100% ※出席状況等も加味する場合があります (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	教科書と学校オリジナルのプリントを用いたり、学生同士のディスカッションを交えながら学習する。						
教科書等	関係法規、医療概論	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	医療概論総論						
第2週	医療概論各論:現代医学の現状と課題						
第3週	医療概論各論:現代の医療制度の現状						
第4週	医療概論各論:東洋医学と西洋医学						
第5週	医療概論各論:医療倫理①(医療従事者の倫理)						
第6週	医療概論各論:医療倫理②(インフォームドコンセント)						
第7週	医療概論各論:医療倫理③(ターミナルケア)						
第8週	医療概論各論:医療倫理④(遺伝子)						
第9週	医療概論各論:医療倫理⑤(その他)						
第10週	医療概論各論:世界の医学の歴史①						
第11週	医療概論各論:世界の医学の歴史②						
第12週	医療概論各論:アジアの医学の歴史						
第13週	医療概論各論:日本の医学の歴史①						
第14週	医療概論各論:日本の医学の歴史②						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容から各自、現在の医療についての知識を深めていくように努力すること。						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	関係法規	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院開設(経験年数28年)	担当者	加藤 孝紹	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	“あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゆう師等に関する法律”について学び、鍼灸師として必要な法律知識を習得する。			評価方法			
授業概要	教科書と学校オリジナルのプリントを用いたり、学生同士のディスカッションを交えながら学習する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	関係法規	使用器材	PC、プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	序論 法とは何か						
第2週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律①						
第3週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律②						
第4週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律③						
第5週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律④						
第6週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律⑤						
第7週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律⑥						
第8週	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律⑦						
第9週	第2章 関係法規① 医事法規と医療制度、医療法						
第10週	第2章 関係法規② 医師法、その他の医療従事者に関する法律						
第11週	第2章 関係法規③ 薬事法規						
第12週	第2章 関係法規④ 衛生関係法規						
第13週	第2章 関係法規⑤ 社会保険関係法規						
第14週	第2章 関係法規⑥ わが国の医療制度、その他の関係法規						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容から各自、鍼灸師としての法律知識を深めていくように努力すること。						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	社会保障制度及び職業倫理	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院開設(経験年数28年)	担当者	加藤 孝紹	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	わが国の社会保障制度の歴史を学び、現在の鍼灸師のおかれている状況を理解するとともに、医療倫理さらに鍼灸師としての職業倫理を学ぶ。			評価方法			
授業概要	教科書と学校オリジナルのプリントを用いたり、学生同士のディスカッションを交えながら学習する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	社会あはき学	使用器材	PC、プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	職業倫理① 倫理とは						
第2週	職業倫理② 医師(医療者)の倫理とは						
第3週	職業倫理③ 医師(医療者)の倫理について						
第4週	職業倫理④ 医療者-患者の倫理とは						
第5週	職業倫理⑤ 医療者-患者の倫理について						
第6週	職業倫理⑥ 施術者としての倫理						
第7週	職業倫理⑦ 施術者としての倫理について						
第8週	現代の医療制度① 医療従事者と医療施設						
第9週	現代の医療制度② 医療と医療経済						
第10週	現代の医療制度③ 医療保険のしくみ						
第11週	現代の医療制度④ 我が国の医療保険制度						
第12週	現代の医療制度⑤ 鍼灸と医療保険制度						
第13週	現代の医療制度⑥ 鍼灸における保健制度のしくみと方法						
第14週	現代の医療制度⑦ 我が国の医療保険制度のまとめ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義を復習し、各自職業倫理とはどういうことか考える時間を作るようにすること。						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	東洋医学概論 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸学科教員経験18年	担当者	柊木 明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 東洋医学における人体の見方・歴史が説明できる。 2. 陰陽論・五行論が説明できる。 3. 気・血・津液・神が説明できる。 4. 病因・病機が説明できる			評価方法			
授業概要	東洋医学概論は古代中国の基本的な思想・理論、診察から治療方法までの概要が含まれている。陰陽五行思想や天人合一思想などの思想観、気・血・津液、精と神、臓腑と経絡などの身体観、東洋医学の診察法(四診)、病因と病機、病証などの診断法と疾病観など東洋医学の基本的な知識を教授する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新版 東洋医学概論、配布プリント、 鍼灸学【基礎編】	使用器材	PC、液晶プロジェクター、白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ガイダンス、東洋医学の特徴 その① 東洋医学の沿革						
第2週	その② 東洋医学の沿革、人体の見方						
第3週	その③ 東洋医学的治療、日本の東洋医学の現状						
第4週	東洋医学の思想「陰陽学説」その① 陰陽学説の基本内容						
第5週	その②陰陽学説の運用						
第6週	その③人体における陰陽						
第7週	「五行学説」 その① 五行学説の基本内容						
第8週	その② 五行学説の運用						
第9週	その③ 五行学説のまとめ						
第10週	生理と病理 「生理物質と神」 その① 精・気						
第11週	その② 血・津液						
第12週	その③ 生理物質の相互関係						
第13週	その④ 神						
第14週	「病因病機」 その① 病因 外感病因						
第15週	その② 内傷病因、病理産物その他の要因、内生五邪、伝変と波及						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2 復習は授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	経絡経穴概論 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田 和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 経絡経穴の概要を説明できる。 2. 各経脈の流れ(流注)を説明できる。 3. 各経穴の位置などを説明できる。			評価方法			
授業概要	経絡経穴について主に教科書とスライドを使い説明する。また、授業の冒頭で小テストを行い知識の定着を図る。			中間 + 期末試験 70% 小テスト30% ※出席状況等も加味する場合がある (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	経絡経穴概論	使用器材	プロジェクター・白板・骨模型				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ガイダンス 経絡・経穴の基礎について 演習問題 (経絡の概要:経絡について)						
第2週	小テスト 経絡経穴の基礎残り～経穴の概要 演習問題						
第3週	小テスト 解剖学的肢位について 演習問題						
第4週	小テスト 骨度法について 演習問題						
第5週	小テスト 要穴について(要穴の概略～背部兪穴) 演習問題						
第6週	小テスト 要穴について(五兪穴・五行穴～禁鍼穴・禁灸穴) 演習問題						
第7週	中間テスト						
第8週	中間試験の解答解説および復習						
第9週	督脈流注と経穴(長強一大椎:14穴)の部位 演習問題						
第10週	小テスト 督脈の経穴(瘻門一鬲交:14穴)の部位 演習問題						
第11週	小テスト 任脈流注と経穴(会陰一建里:11穴)の部位 演習問題						
第12週	小テスト 任脈の経穴(中腕一承漿:13穴)の部位 演習問題						
第13週	小テスト 手の太陰肺経流注と経穴(中府一少商:11穴)の部位 演習問題						
第14週	小テスト 手の陽明大腸経流注と経穴(商陽一温溜:7穴)の部位 演習問題						
第15週	小テスト 手の陽明大腸経の経穴(下廉一迎香:13穴)の部位 演習問題						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること 3 講義後、分からない所があれば講義後に先生に質問し、できるだけ当日中に理解すること						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	社会はり学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院開設(経験年数14年)	担当者	堀之内 貴一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	現代社会において、鍼灸師を取り巻く状況を様々な視点から捉え、鍼灸師が果たすべき役割について考えさせる。また、様々な分野における鍼灸治療の方法を学習することで将来に役立つ知識を身につける。			評価方法			
授業概要	教科書と学校オリジナルのプリントを用いたり、学生同士のディスカッションを交えながら学習する。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	社会あはき学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第1章 総論						
第2週	第2章 1. 現代社会における医療制度の現状						
第3週	第2章 2. 医療保険制度および介護保険制度の概要						
第4週	第2章 3. 社会保険制度下におけるあはき治療①						
第5週	第2章 3. 社会保険制度下におけるあはき治療②						
第6週	第2章 4. 医療機関におけるあはき師の役割①						
第7週	第2章 4. 医療機関におけるあはき師の役割①						
第8週	第3章 1. 施術所におけるあはき治療①						
第9週	第3章 1. 施術所におけるあはき治療②						
第10週	第3章 2. 在宅治療						
第11週	第3章 3. 介護保険制度下での業務①						
第12週	第3章 3. 介護保険制度下での業務②						
第13週	第3章 4. 併用するその他の療法①						
第14週	第3章 4. 併用するその他の療法②						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義内容から各自、将来鍼灸師としての治療に携わる状況を想像して自分にできる事、したい事を考えること。						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	基礎はり実技	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院開設(経験年数14年)	担当者	堀之内 貴一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	鍼の名称や素材などを知り、また基本的な刺鍼方法を学び痛みの少ない刺鍼技術を習得する。			評価方法			
授業概要	教科書を用いて道具の知識や施術方法を学び、刺鍼練習器を用いて実技練習を行う。			期末試験(実技) 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技(基礎編)	使用器材	刺鍼練習器、銀鍼、鍼管、ステンレス鍼				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	道具確認 消毒などの注意事項説明						
第2週	鍼の名称 片手挿管						
第3週	片手挿管、押手の型						
第4週	片手挿管						
第5週	前揉法・後揉法、刺鍼練習器に切皮練習						
第6週	消毒の意義、刺鍼練習器に切皮練習						
第7週	前消毒から抜鍼・後消毒まで一連の動作へ						
第8週	前消毒から後消毒まで(同上)、銀鍼による旋撚術						
第9週	銀鍼、直刺、切皮練習、銀鍼による旋撚術						
第10週	銀鍼、直刺、切皮練習、銀鍼による旋撚術						
第11週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第12週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第13週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第14週	銀鍼、刺鍼練習器Aへ直刺1cm刺入(旋撚術)						
第15週	まとめ 手技の総復習						
授業外学習指示等	講義時間内に出来なかった事は各自自習をするなどして技術向上に努めること。						

令和8年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科 1年	科目名	基礎きゅう実技	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田和宏	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 灸の素材・成分などを説明できる。 2. 艾捻り・施灸方法を理解できる。 3. 米粒大の艾炷をペーパー上で規定個数以上点火出来る。			評価方法			
授業概要	艾、線香などの正しい使い方を身に着け、目的の艾炷を作成できるよう練習を行う。			期末試験100% ※出席状況等も加味する場合がある (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	はりきゅう実技(基礎編)	使用器材	施灸練習台、艾、線香、ライター、ペーパー類				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	道具確認、実技室の使用方法などの注意事項説明、手洗い・手指消毒について						
第2週	艾の種類・成分・性質、灸棒の作成						
第3週	灸棒の作成、左手の使い方						
第4週	灸棒の作成、左手の使い方、艾捻り(米粒大)(施灸練習台・フェルト面)						
第5週	灸棒の作成、左手の使い方、艾捻り(米粒大)(施灸練習台・フェルト面)						
第6週	艾捻り(米粒大)(施灸練習台・フェルト面及び金属面)、艾炷の形状を整える						
第7週	艾捻り(米粒大)(施灸練習台・フェルト面及び金属面)、艾炷の形状を整える						
第8週	艾捻り(米粒大)、艾炷の形状を整える、線香の使い方 施灸練習台(金属面)での点火(米粒大)						
第9週	艾捻り(米粒大)、艾炷の形状を整える、施灸練習台(金属面)での点火(米粒大)						
第10週	艾捻り(米粒大)、艾炷の形状を整える、施灸練習台(金属面)での点火(米粒大)						
第11週	施灸練習台(金属面)での点火(米粒大)、ペーパー上での点火(米粒大)						
第12週	施灸練習台(金属面)での点火(米粒大)、ペーパー上での点火(米粒大)						
第13週	ペーパー上での点火(米粒大)						
第14週	ペーパー上での点火(米粒大)						
第15週	ペーパー上での点火(米粒大)						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること						